

平成26年度

花巻市男女共同参画基本計画見直しにかかる意見交換会(第2回)団体発言要旨

日 時：平成26年12月19日(金) 午前10時～正午

場 所：花巻市生涯学園都市会館女性団体活動交流スペース

【出席団体・参加人数】7団体15名

花巻市交通安全母の会連合会 3名、花巻市母親連絡会 2名、花巻市地域婦人団体協議会 2名、花巻市老人クラブ連合会花巻支部女性部 2名、花巻農業協同組合花巻地域女性部 3名、新日本婦人の会花巻支部 1名、女性センターを実現する会 2名

【主な意見等】

- ・「父兄」という言葉を使っているが、なぜかということが分かっていない。昔は親権は母親にはなかったが、制度が変わって母親も親権を持つようになった。だから「父母」や「保護者」ということになったという経緯がないとなかなか出来ない。PTAなどで校長先生にはこういうことで私たちは「保護者」という言葉を使っていると話している。理由が分かればそうだよねってなるので、やはり啓発は大事だと思います。(女性センターを実現する会 佐藤)
- ・「主人」と慣れてきた。地区の集まりでも気を使うことがある。例えば、おじいちゃんやおばあちゃんがいるときには「主人」と言っても誰も批判はしません。勉強していると自分で意識的に考える。慣れは恐ろしいと思います。自分も気を付けるけれども、そうではないと意味も分からないといけない。(交通安全母の会 伊藤)
- ・「主人」と使う方は限られています。「主人」は気取った言い方で、自分が上の感じ。「主人」は未だに上下関係を持った言葉。ただ「夫」という意味でしか使われていないのであれば、少しも問題ないと思います。夫は「主人」と呼ばれることが心地いいと感じています。男女共同参画推進の動きからしたら、小さいことだけど大事に進めていきたいという願いがあります。女は強くない立場。今は男女が平等とは言えない社会だと思います。DVは統計的にみると、9割方女性が被害者。ジェンダーが平等になったらどういう言葉を使っても問題ないかもしれないが、今は大事にしたいと思います。(女性センターを実現する会 穂高)
- ・呼び方は地域性もあると思います。例えば、沿岸の日常生活の言葉は荒く、都会にいくと「主人」というようないい言葉を使う。雰囲気や環境、立場など総合的に考えて、生活に支障をきたさないような使い方。呼び方だけで強調して論議するのはどうか、

もっと深いことがあると思います。(老人クラブ連合会女性部 菅原)

- ・男女とも平等に子育てしようとしているが、現実では子供の送り迎えとかが大変。女性に負担がかかっている。読売新聞「子は財産で、社会で共有していく。公的教育の中でももう少し手厚く質の高い教育を提供することも教えていかなければいけない。」(地域婦人団体協議会 小原)
- ・懇親会での最後の片付けは女性でした。法律ができてから、みんなでやることを話したことがあり、洗い物は男女でやるようになった。女性部は賄部ではない、男性も積極的に入るようになった。最初は年配の女性が言っていたが、若い女性が入って会議のときにその話をした。それがだんだんに浸透してきた。(女性センターを実現する会 佐藤)
- ・男女共同参画は意識の問題が奥にあると思います。意識は同じフィールドの下で使っていかなければいけないと思います。花巻市の中でも全然知らない人がいる。同じレベルの人とは話しできるが、皆に浸透していくことが課題ではないかと思います。学校教育にも取り入れていくべきですし、男性も話し合いに参加すべきだと思います。(地域婦人団体協議会 千葉)
- ・いろんな場で、男女共同参画はこういうことだと啓蒙していくことが必要。(老人クラブ連合会女性部 小松原)
- ・計画から10年以上が経っているから、意識レベルから足を洗っていないといけない時期だと思うが、そうではない。意識の問題は簡単には変えられない。男性も女性も同じように行動できるようになればいいと思います。(女性センターを実現する会 穂高)
- ・意識を啓蒙するっていう意味では、全然浸透していないと思います。具体的に気が付いていないことがいっぱいあります。男性が集まる場所で、啓蒙活動で寸劇などを使い、見える形で運動していけばいいと思います。(母親連絡会 藤井)
- ・何年前まで、地域の中で決め事をするときに女性が全然入っていなかった。男女共同参画の流れになってから、会議に女性が入るようになった。伝統的な神社などのことには女性が入っていけない。職場環境は劣悪でした。会社を仕切っているのは男性。男女平等と自分で訴えるには勉強しなければならない。女性も男性並みに働く努力が必要だと思います。若い人たちに平等だと自然に表せるような教育をしてもらえれば

いいと思います。(地域婦人団体協議会 千葉)

- DV についてですが、親子の中で息子が引きこもりでお母さんが地域の中でいろんなことをやっていたが、地域の集まりにも出て来なくなった。別の家族ですが、家を新築するときでお金の出し合いをしたときに、お母さんには権利がないという話があった。農家では男性が力仕事中心ということが雰囲気の中で出てしまう。
男女共同参画推進員を男女半々という状況づくりを行政側もやっていかなければいけないと思います。同じ人が推進員をやっていると、いろんな人に広がっていかないことは反省点。組織の中にいろいろなパターンの人が入っていけばもっと広がり意識的に持っていけるとと思います。(JA 女性部 葛巻)
- 担当部署が、男女共同参画推進がどの程度進んでいるのか把握していない。推進会議で進捗度を確認することが必要だと思います。広報に男女共同参画コーナーがありますが、それを冊子にするとちょっとした言葉のコーナーがあればいいと思います。意識を変えるのは言葉と行動。言葉の意味を分かるような形で、言葉の使い方を知ることが必要だと思います。(女性センターを実現する会 佐藤)
- DV について地区内では聞かない。農家の人の言葉は少し乱暴であるが、自分では DV かなと思うことはあるが、その方はずっとそうやってきているので DV とは思っていないかもしれない。DV の相談はないが、相談窓口があることは宣伝する。茶碗を洗えば男女共同参画だと思っている人がいる。家事も交代でやれば男女共同参画だということが、アンケートの結果にも出ていると思います。(交通安全母の会 伊藤)
- マスコミなどで、男女共同参画について言葉ではほとんどの方は知っていると思います。自分の組織だけでもリーダーが役割を發揮していけば浸透していくと思います。戦後からみれば確実に良くなっていると思います。かかあ天下など間違った意識もあるが、夫婦間で理解し合える環境が大事だと思います。(老人クラブ連合会女性部 菅原)
- 男女共同参画はまだまだ浸透していないと思います。サークル活動に、女性が旦那に束縛されて参加できない。男性の男女共同参画の意識が女性よりも低い。10年ではとても変わらない。(新日本婦人の会 多田)
- 会の中に DV 被害者がいます。花巻市の相談には行かない。近すぎるし、相談にならない。身近な人には知られたくない。盛岡女性センターには花巻市から多く来ている。相談に来ないからといって花巻には DV がないわけではない。(女性センターを実現す

る会 穂高)

- ・DV に関して表に出てくる数字は少ないと思います。本人が気付いていない場合もあります。本人が気付くことが大事で、本人が自己判断出来るような環境をつくっていくことも必要だと思います。(女性センターを実現する会 佐藤)
- ・男女の不平等さは個人企業では根強くあると思います。(交通安全母の会 伊藤)
- ・提言ですが、行政で市内企業のリーダーにPR する会を持ってほしいです。低年齢のときからの環境づくりが大事だと思います。意識改革は絶対必要だと思います。(老人クラブ連合会女性部 菅原)
- ・男女共同参画の事業を実施するにあたって、誰がどのように担当するか明確にしなければいけないと思います。(交通安全母の会 日下)
- ・農業経営の法人化に伴い、女性の立場が全くない現状です。農協として、女性リーダー、女性担い手の育成、研修の助成、6次産業化の補助事業、女性の自立を促すことが必要だと思います。高齢者、女性、若者の居場所を確保するか考えていかなければならないと思います。(JA 女性部 葛巻)
- ・女性センターでの行政と民間をつなぐ役割が期待されている。地域と女性センターのつながりが大事で、力を発揮できるような場が必要だと思います。女性の労働環境が守られるようなネットワークの拡大が必要だと思います。(女性センターを実現する会 佐藤)
- ・男女雇用均等法で定めているものも、実際の職場では守られていないのが現状です。審査するようなシステムがあればいいと思います。女性が男性にも負けずに働くには、子どもを産んで働くことはすごく大変。結婚しないで働く人がいてもおかしくない。(地域婦人団体協議会 千葉)